

かわにし市民会議からの提案（案）

～第2班 子育て・教育の充実～

以下の8つの提案は、私たち第2班の会議参加者が、5回にわたって議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 子どもたちが川西市で育ったことに誇りを持ち、将来の夢を描くきっかけとなるような教育を行う

提案

2. 学校・家庭・地域が連携協力し、教育に携わる風土・体制を整える

提案

3. 子どもの学力向上を目指し、地域で学習支援を進める仕組みを構築する

提案

4. いじめゼロを目指し、学校と地域が協力して取り組む体制をつくる

提案

5. 子育て世帯への産前産後ケアとして、行政・地域が協力し、「産前」からのサポート体制の充実を図る

提案

6. 産後の子育て世帯に対するサポート体制の充実を図る

提案

7. 子どもだけでなく、保護者も交流できる場を提供する

提案

8. 子育て中の世帯（夫婦とも）に教育・子育て情報が伝わる仕組みをつくる

提案

9. 個人、地域、行政すべての人が情報を共有できる環境をつくる
子育て、教育等にかかわりやすい環境

提案

10. 地域に誰もが気軽に過ごせる場所をつくる 多世代交流

提案

1. 子どもたちが川西市で育ったことに誇りを持ち、将来の夢を描くきっかけとなるような教育を行う

【提案内容】

子どもたち一人ひとりが個性を伸ばし、夢の実現に向けて努力できる環境を整えることが、川西市にとって大切である。

自身が生まれ育ったまちに思い出と愛着を持ち、子どもの頃に体験した学びが「将来の夢」を描くきっかけとなるような“川西市ならではの”教育を行う必要がある。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

川西市に興味を持ち、教育の問題点や特色について考え、地域や行政に提案をする。

市や地域のことを積極的に学び、広める。

部活や体験学習に参加・協力する。

地域密着型体験学習に参加・協力する。

職業体験に参加・協力する。

地域

「川西市に住む子どもたち」に地域の魅力や伝えたいこと（地域の歴史・特色など）を考えて伝える。

部活動や体験学習に協力する。

地域密着型の体験学習を実施する。

職業体験の場を提供する。

行政

「川西市に住む子どもたち」に市の魅力や伝えたいこと（市の歴史・特色など）を伝えていく。

公立で中高一貫校の設立を検討する。

学習指導要領に加え、川西市ならではの教育を実施し、積極的な広報を行う。

地域密着型の体験学習の実施を支援する。

フレキシブルに対応できる窓口（個人・地域を支える）を設けるとともに、子ども一人でも相談できる窓口を設ける。

民間企業、 NPO等

その他の意見

適応の難しい子どもの内面を理解し、のびのび学校生活を送れるような環境が必要ではないか
英語教育の特区を作ってはどうか

学校に行く目的を子どもに考えさせる取組が必要ではないか

子どもに「将来やりたいことやビジョン」を持たせられていないのではないか

地域に根差した教育として里山体験教育やトライやるウィークを既に実施しているのではないか
そもそも、特色とは何か？本当に必要なのか

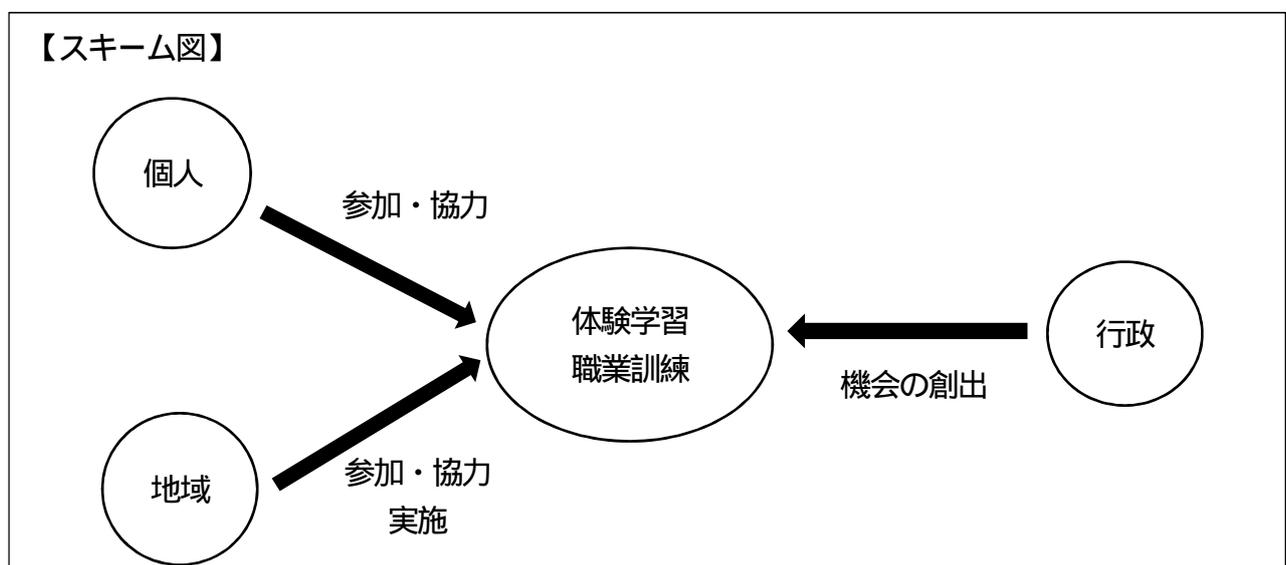
全校・全住民にアンケートをとってはどうか

～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	学習指導要領に加え、川西市ならではの教育を実施	・川西市の自然や産業を活かした教育 ・給食で川西市の特産品をだすなど、川西市ならではの献立を考える ・中高生が幼児と触れ合える場を設ける
	地域密着型の体験学習	・地域で職業体験ができる機会の創出を支援する。

～具体的な施策提案～

1. 地域密着型の体験学習や職業訓練の実施



2. 学校・家庭・地域が連携協力し、教育に携わる風土・体制を整える

【提案内容】

「教育・学習」と聞くと、学校や子育て世帯が関係するものとイメージしやすいが、共働き世帯の増加や核家族化の進展など子どもを取り巻く環境が大きく変化する現代社会においては、学校・家庭・地域の連携協力をより一層強化する必要がある。三者が一体となって子ども達を育てる体制を整えることにより、子ども一人ひとりの「生きる力」を伸ばす教育につながる。

また、学校を活動の場とすることで、地域住民の活動拠点を広げ、自分らしい生き方、生きがいづくりを見つけるきっかけづくりを目指したい。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

学校でやりたいこと、できないかを考え、行動する。

学校以外の家庭や地域など、それぞれの場所で学んでほしいこと、できることを考え、行動する。

地域活動を自分事と捉え、積極的に参加する。

学校を活動の場と捉え、学校で地域活動を行う。

同じ得意分野や考えを持つ住民をコーディネートし、個人の活動を支援する。

地域

イベントだけでなく日常的に学校や子どもたちとの関わりをつくる。

地域住民が学校内でのサークル活動を行う。

授業の手伝いをする。

見守りの実施や子どもが参加できるイベントを開催する。

行政

地域に開かれた学校を構築する。

コミュニティスクールを設置し、運営に地域の意見が反映される仕組みを構築する。

地域住民と子どもたちをつなぐ機会をつくり、安全面をサポートする。

地域団体が子どもに対して行うイベントについては、学校を自由に使えるようにする。

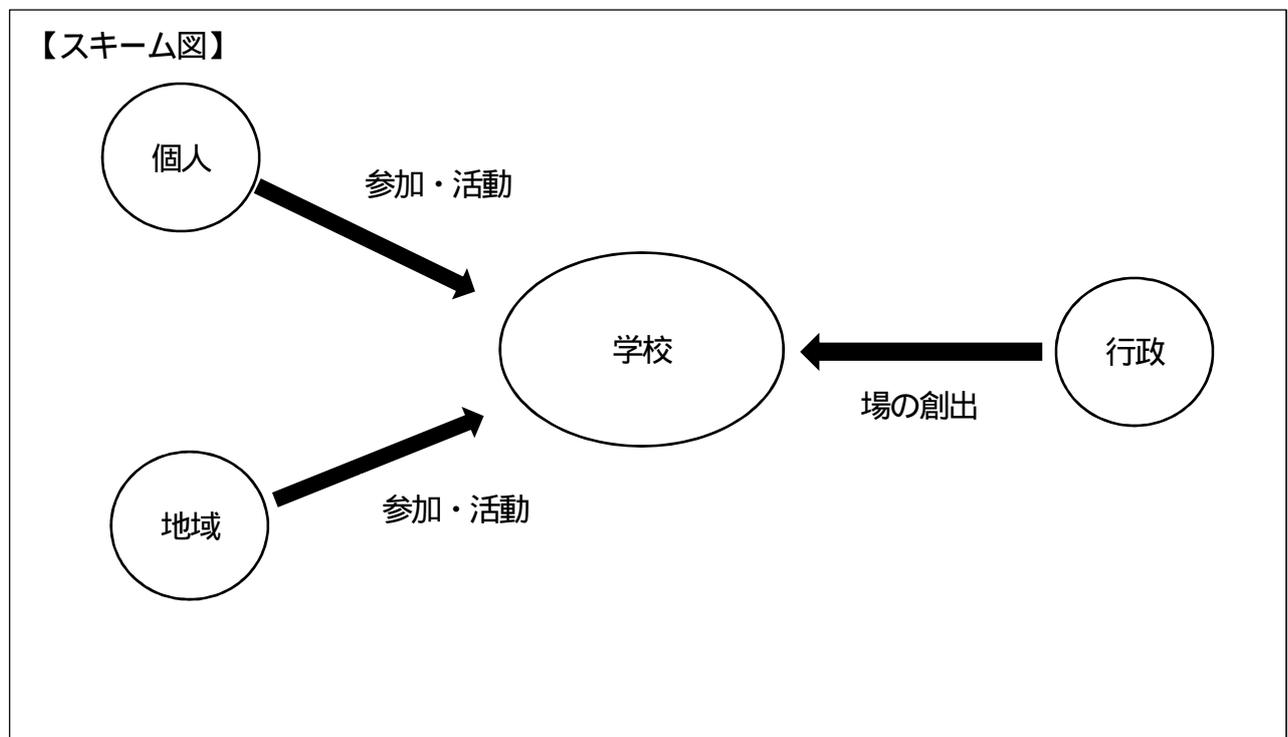
民間企業、
NPO等

その他の意見

小学校に限らず、保育所・幼稚園～高校まで地域の方が関わることで、先生とうまくいかなくても、地域とのかかわりで学校が好きになってくれるのではないか。

～具体的な施策提案～

1．学校を活動の場とした地域活動等の実施



3. 子どもの学力向上を目指し、地域で学習支援を進める仕組みを構築する

【提案内容】

学校教員の負担増加が大きな社会問題となっている中で、未来を担う子ども達を健やかに育むためには学校だけでなく、学校・家庭・地域がそれぞれの立場で子ども達に関わり、地域全体で子ども達に接する体制づくりを目指す必要がある。

そのためには、放課後や夏休みなどの時間を活用し、地域住民や保護者が学習を支援できるような仕組みを作る必要がある。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

子どもが学校や地域で行っている勉強会に興味や関心を持ち、参加につながるようなきっかけをつくる。

家庭学習を行う。

学習ボランティアに参加する（教える側として）。

地域

地域で学習ボランティアを募集し、放課後などに勉強会を開く。

学習ボランティアのための学習会を開く。

夏休みなどに、子どもが興味を持つ特別授業(科学実験等)を行う。

行政

家庭・地域で行う学習の支援を行う。

放課後に勉強会を行う。

学習ボランティアを募集する。

教員の業務負担を減らすシステムを検討し、教員の教育に使える時間を増やす。

子どもがやりたい事を学べる場所・人のマッチングを行う。

提出書類（発達支援等）を手書きではなくパソコン入力できるようにし、利用者の負担を減らすシステムを導入する。

民間企業、 NPO等

その他の意見

ALT 教育について授業の最後に担任が日本語で説明するので、必要性が薄いのではないか。

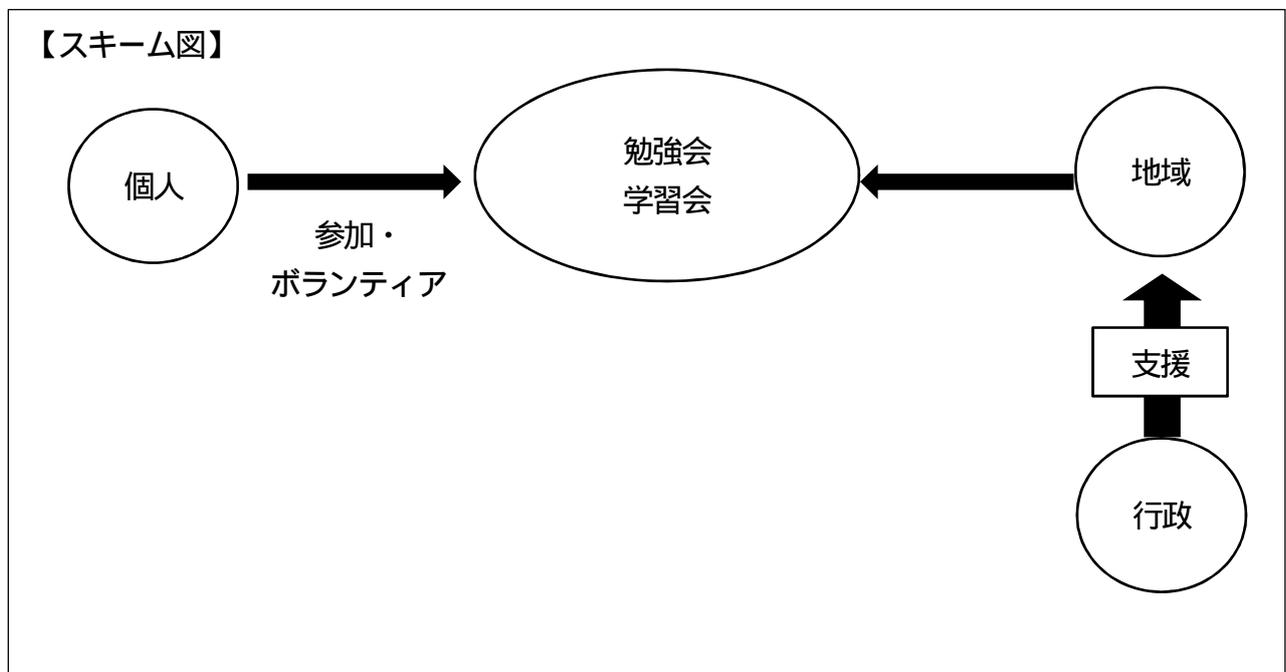
学校での勉強会の場合、距離が離れている子どもは行きにくいので、家庭学習が重要ではないか

～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	家庭・地域で行う学習の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域ボランティアに学習支援方法を伝える。 ・家庭学習に必要な教材の貸出を行う。 ・地域が行う放課後勉強会の場所を提供する(学校等) ・教師を目指す人を学校・地域で行う勉強会にボランティアとして参加できる仕組みを作る(ホームページでの募集など)。

～具体的な施策提案～

1. 地域における勉強会・学習会の開催



4. いじめゼロを目指し、学校と地域が協力して取り組む体制をつくる

【提案内容】

子どものいじめや不登校には多くの原因がある。いじめゼロを目指すとともに不登校の児童生徒を支援するには、個人や学校の問題とせず、みんなの課題であると考えることが重要である。一人ひとりが「自分たちのまちの学校」の問題と捉え、自分たちにできることを学校と協力して進める必要がある。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

いじめと感じたら見て見ぬふりをせず、学校に相談する。
 子どもを通じて、子どもの友達や友達家族、ご近所の方と関わりを持つ。
 自治会に入り、人との交流を増やす。
 学校だけが学びの場ではないことを認識する。

地域

個人や学校の問題とせず、地域の問題としてもとらえる。
 自治会や老人会などあらゆる人で子どもの見守り活動を行い、異変を感じたら学校に相談する。
 不登校の子どもを受け入れるオープンハウスをつくる。

行政

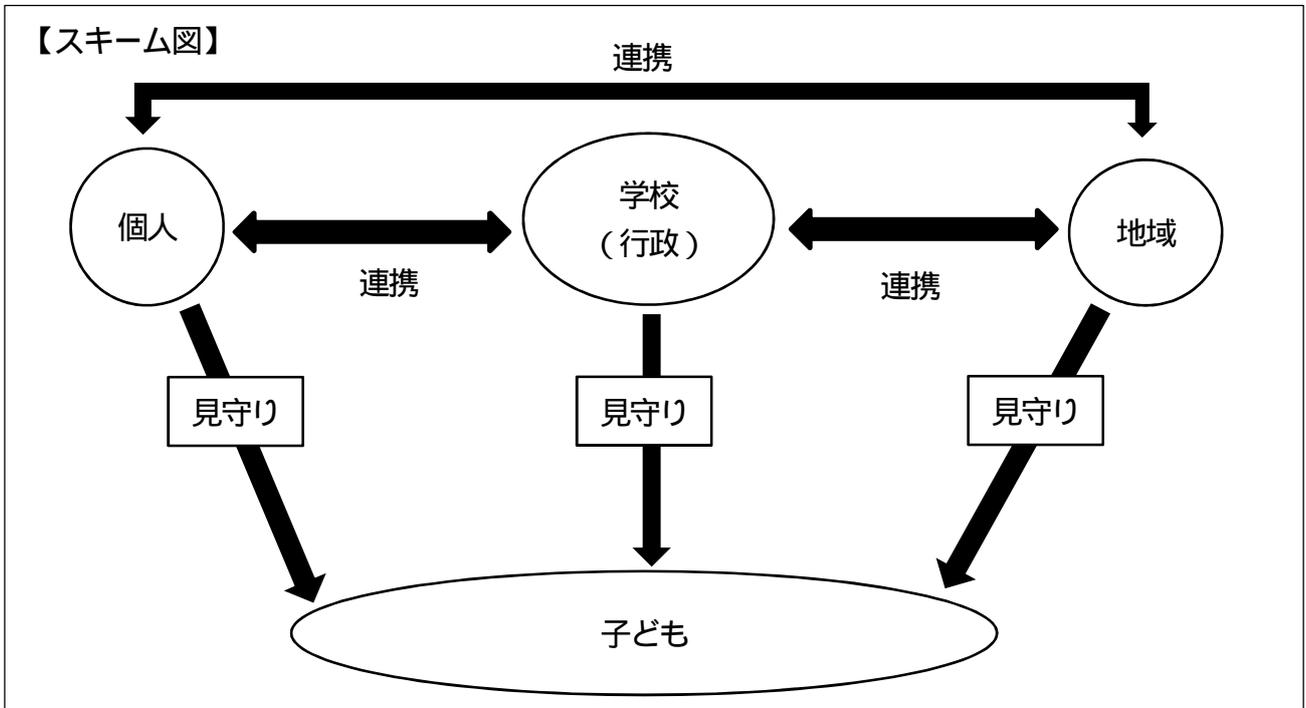
不登校児童に対し、積極的に関わっていく。
 いじめの事例を紹介するなど積極的に情報を公開する（ナーバスな問題であり安易に公開すべきでない意見もあり）
 いじめ等の再発防止マニュアルをつくる。
 フリースクールが広まるよう支援を行う。
 電話相談だけでなくメール等でも相談を受け付ける。
 LGBTをはじめとした性教育を充実させる。

民間企業、 NPO等

その他の意見

先生と生徒の意思疎通がうまくいかない場合でも、取り残される子どもを出さないようにするのが大事ではないか。

1. 学校（行政）・地域・個人が協力する子ども見守り体制の構築



5. 子育て世帯への産前産後ケアとして行政・地域が協力し、産前の子育て世帯に対するサポート体制の充実を図る

【提案内容】

子どもの出産は、夫婦にとって環境が大きく変わるタイミングであり、夫婦ともに肉体的・精神的な負担から、産後うつや児童虐待、夫婦関係の悪化に繋がることもある。子育て世帯が「子どもが生まれたはずなのに」と感じることはないよう、行政・地域それぞれの立場から、産前から産後の継続的なサポートを行う必要がある。

「提案5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

夫婦間で産前に子育て情報を共有しておく。
産前産後などのつらいときは周囲を頼る。
自分自身の子育て経験を積極的に他の子育て世帯に伝え、相談相手となる。
プレイルームなど子どもを連れて出られる場所を調べ、積極的に外出する。
近所の子育てをサポートする。

地域

子育て中の方に声をかける。
公民館で給食会を実施するなど、支援の場を設ける。
地域全体で子育て世帯をサポートする意識を持つ。
子どもを集めて預かれるコミュニティをつくる。

行政

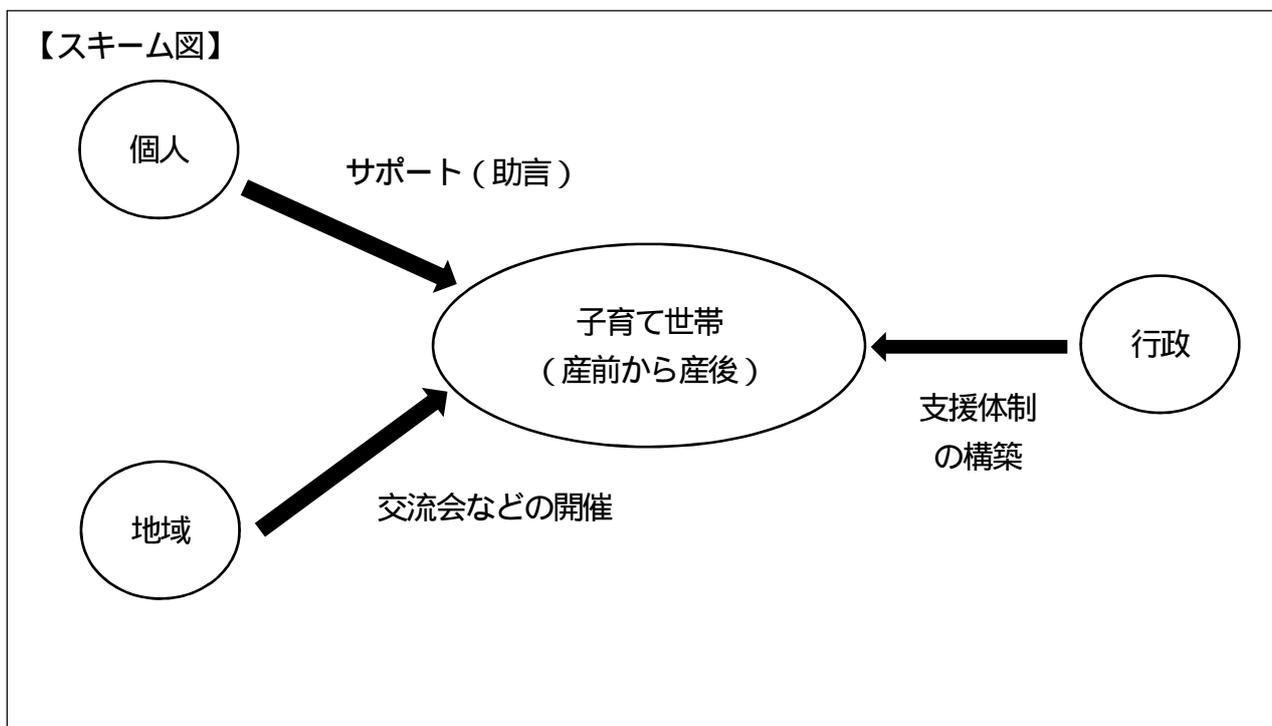
産前・産後の両親学級を設ける。
母子手帳へ産後の情報（経験者談や医師・保育士のアドバイスなど）を盛り込む。
出産後の世帯に対し、生活で困った点をサポートしてもらえる「ヘルパークーポン」を配布する(シルバー人材センター等の協力を得る)。

民間企業、
NPO等

その他の意見

母子手帳を親子手帳に変更。内容も子ども・母・父の三部構成。また、産後に向けて、父親の部には、将来、父親にやってほしいことを母親が記入。母親の部には将来の母親へのお願いを父親が記入できるなどの特色を。 アプリ化も検討。

1. 産前産後のサポート体制の構築



6. 出産後の子育て世帯に対するケアを充実させる

【提案内容】

出産後は慣れない育児で夫婦ともに多忙となること、生活環境の急激な変化などを原因として「プレイルームに行く」といった自発的な行動を起こしにくく、家を出るきっかけづくりが難しくなる。その結果として、孤立を感じてしまうケースもある。

そのため、子育て世帯が外出しやすいような「きっかけ」を積極的につくり、子どもだけでなく家族みんなが笑い合える環境をつくる必要がある。

「提案6」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

夫婦間で話し合いを行う。

川西市が配信している子育て情報（子育て支援アプリ、子育て情報誌）を活用する。

子育て世帯支援のため、ファミリーサポートの登録をする。

地域が取り組む親子料理教室などに参加する。

地域

普段から子育て世帯と日常的に関わりをもつ。

地域で実施する行事や交流会などの情報を配信し、参加を呼び掛ける。

親子料理教室や子ども食堂などを開催し、親子ともにゆっくりできる場をつくる。

行政

子育て世帯が交流、相談できる公共施設を紹介する。

両親が楽しめるプログラムを企画する。

子育て経験者の情報を配信する仕組みを構築する。

地域が取り組む親子料理教室等の開催場所を提供する。

民間企業、 NPO等

その他の意見

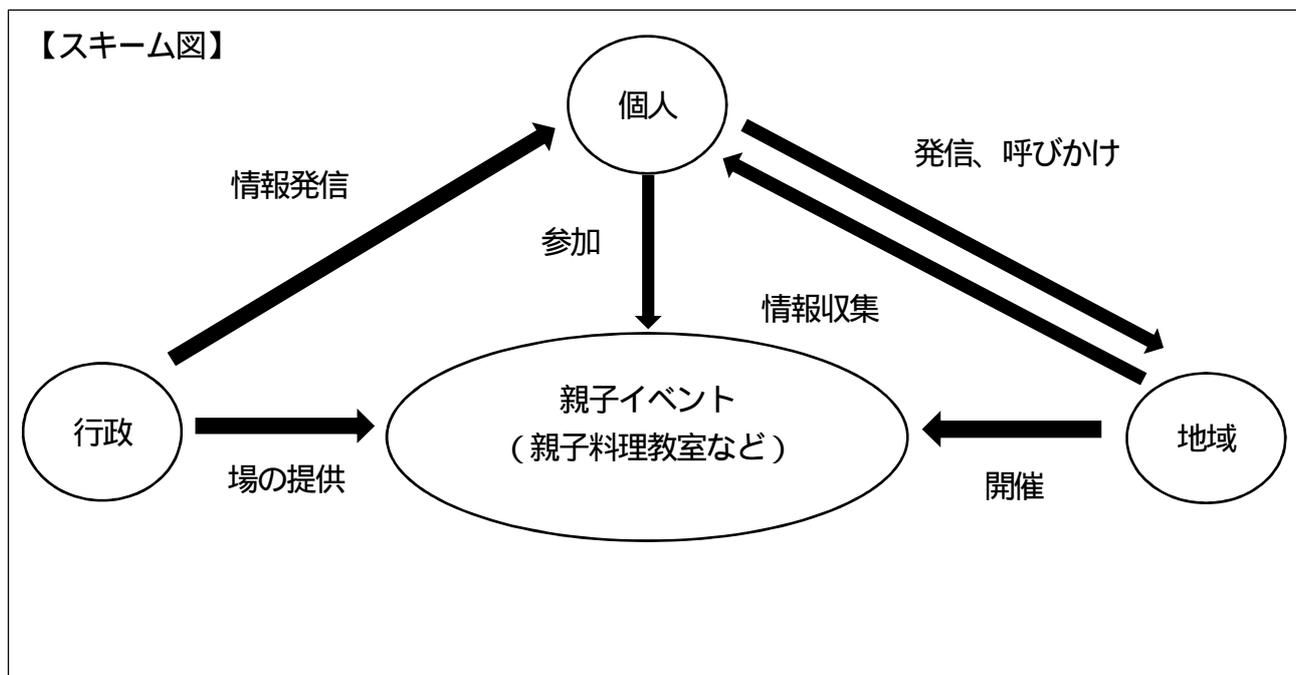
子育て等のイベントの申し込みに手間がかかったり、先着順であったりすると、申し込む意欲が無くなってしまう。簡単な返答で参加出来たり、強制参加とするイベントを企画してはどうか。

～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	両親が楽しめるプログラムを企画	子どもと一緒に参加できるヨガ教室

～具体的な施策提案～

1. 地域による親子イベントの開催



7. 子どもだけでなく、保護者も交流できる場を提供する

【提案内容】

子連れで交流できる場所が不足しており、新たに参加しようと思ってもグループに入れるかといった不安がある。また、今のプレイルームや公園は子どもを遊ばせる場はあっても、保護者同士でプライベートな会話がしにくい。子育て世帯が子どもを遊ばせながら、気兼ねなく話し合え、子育てについての意見交換をできるような環境を作る必要がある。

「提案7」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

情報を収集する。
 集まれる場の情報を発信する。
 プレイルームなどに参加する勇気をもつ。

地域

気軽に集まれる場所づくりを行う。
 そういう場を提供できるコミュニティづくりを行う。
 自治会等で公園清掃をして、地元愛を培う。
 プレイルームに相当する施設について貸出を行う。
 交流会を計画し、講師やプログラムリーダーを市民から募る。

行政

公民館にプレイマットを置くなど子連れでも使いやすいように工夫する。
 プレイルームに参加しやすい工夫をする。
 土日も子育て世帯が活用できるよう公共施設を開放する。
 外出しやすい公園づくりを行う。
 親子で参加できる交流会の場を提供し、その場で教育情報の配信を行う。

民間企業、
NPO等

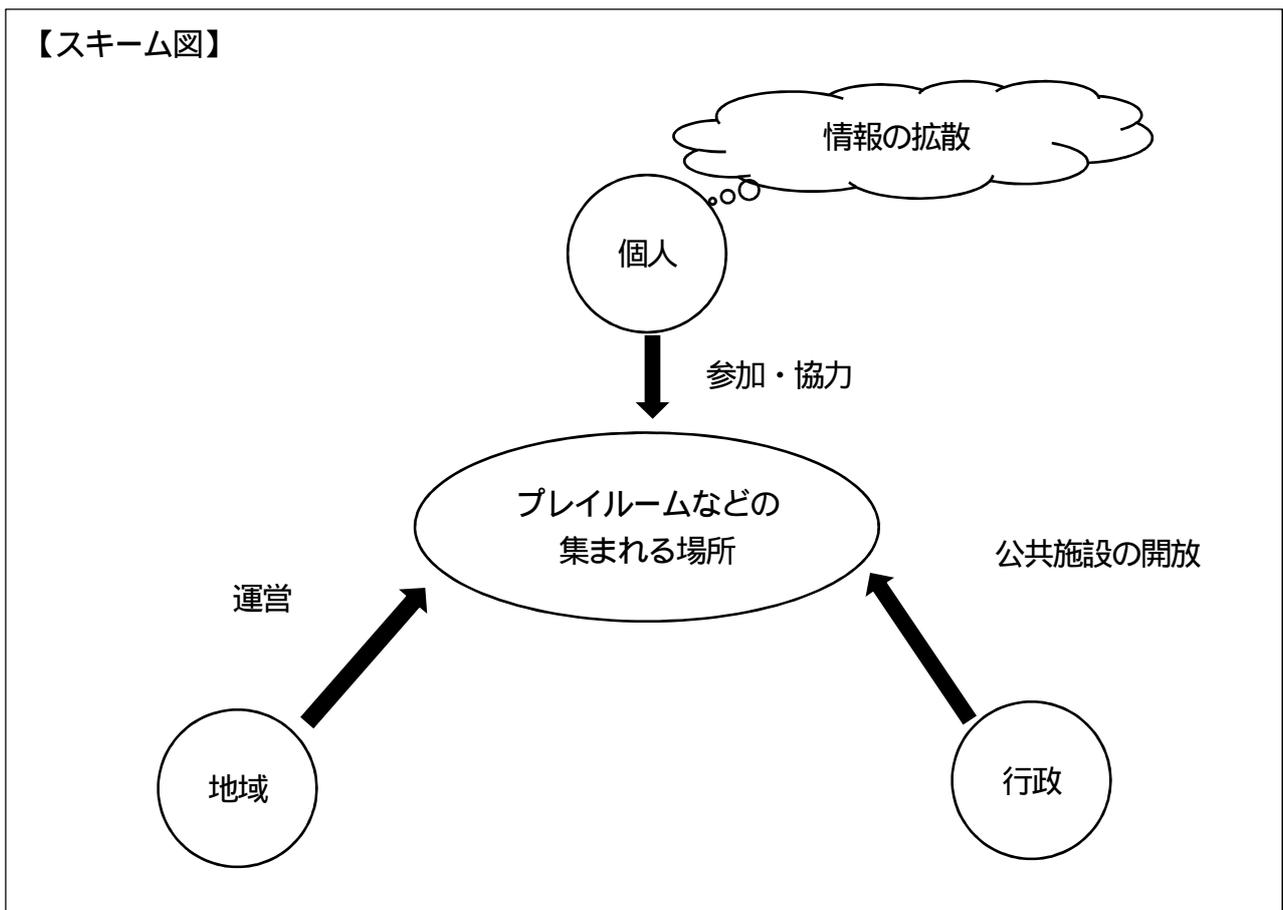
～提案内容の具体的なイメージ～

主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	プレイルームに参加しやすいように工夫する	<ul style="list-style-type: none"> ・外から中が見えやすいようにする ・父親歓迎と記載する ・孤立している方への声掛けなど
	外出しやすい公園づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・水道が自由に使えるようにする ・公園によって遊具を変える

～具体的な施策提案～

1. 両親・子どもが交流できる場所の構築

【スキーム図】



8. 子育て中の世帯（夫婦とも）に教育・子育て情報が伝わる仕組みをつくる

【提案内容】

かわにし市民会議に参加して知った情報が多く、教育や子育て情報を必要としている情報が子育て世帯に伝わっていない。子育てで忙しい世帯には紙情報ではなく、アプリ等を使った配信を行い、母親だけではなく父親にも伝わるような仕組みをつくる。

「提案8」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

ホームページを見るなど情報収集を行う。
 情報公開を要求する。
 欲しい情報を市へ提案する。
 母子手帳を母親だけではなく父親にも記入してもらい、夫婦で共有する。

地域

地域で実施しているプレイルームなどで意見を集めて市に伝える。

行政

子育てアプリ「マチカゴ」を使いやすいように改良し、周知する。
 子育て世帯に対し、欲しい情報についてのアンケートを行う。
 保育所等で実施している育児支援プログラムを一覧化し配信する。
 取組中の情報についても、公開を徹底する
 先輩となる保護者等に質問したい項目をアンケートで把握し、回答してほしいターゲットに送付・集計の後情報提供を行う。
 母子手帳を活用しやすいように工夫する。

民間企業、
NPO等

その他の意見

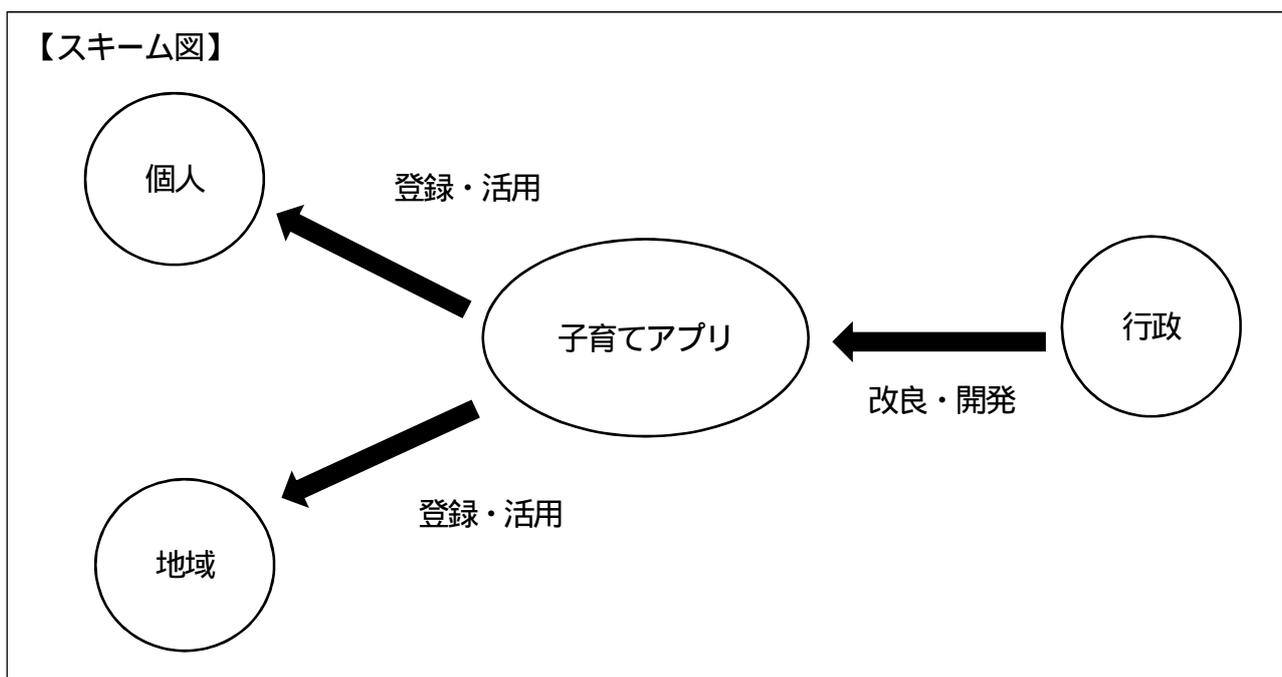
中学校給食が耐震化等を優先したため遅れていることを知らなかった。実施することをしっかりアピールするべき。

～提案内容の具体的なイメージ～

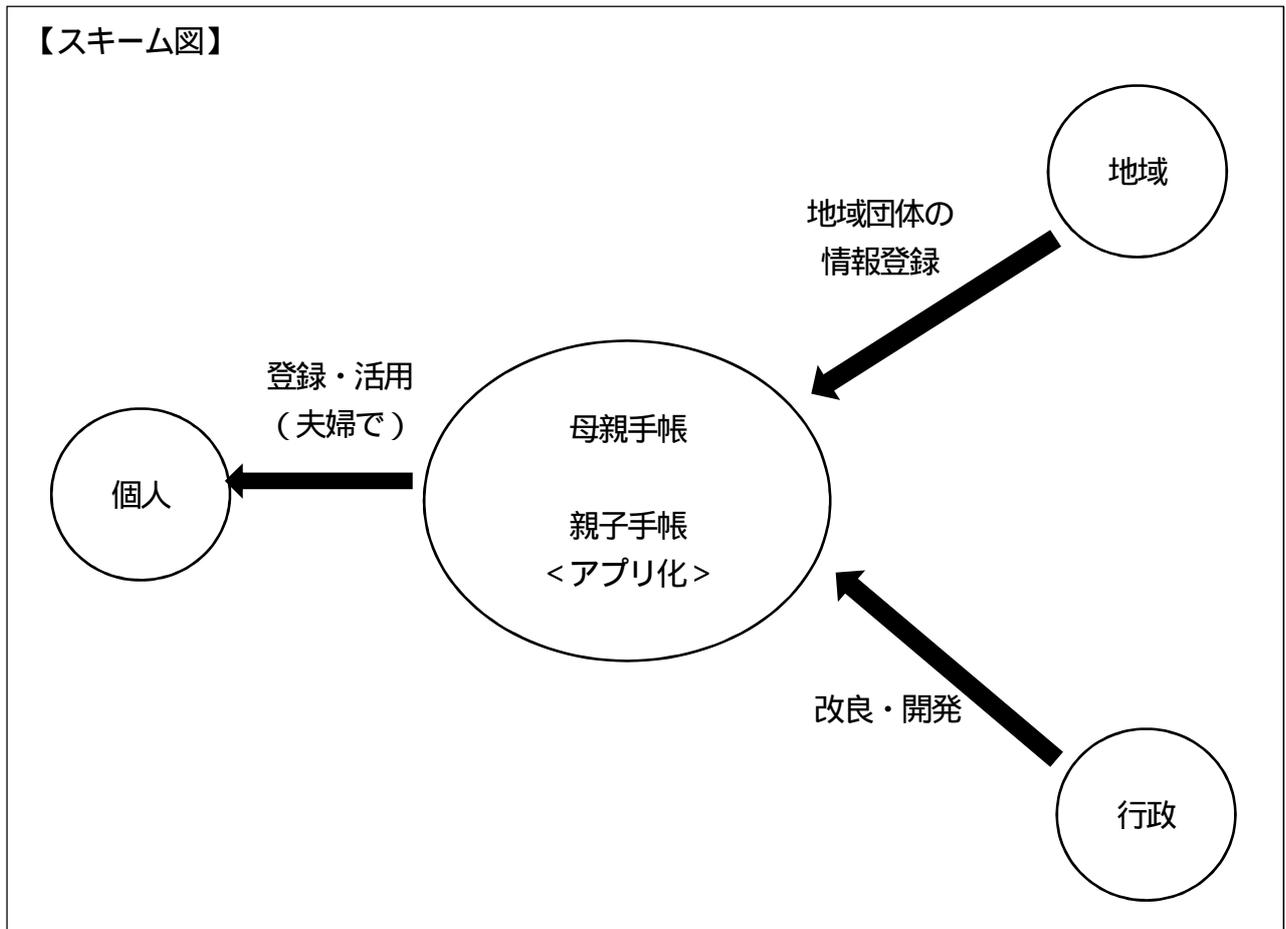
主体	取り組み内容	具体的なイメージ
行政	子育てアプリの改良	<ul style="list-style-type: none"> ・「すくすくガイドマップ」との連携 ・母子手帳のアプリ化し、情報を集約する ・バリアフリートイレやおむつ交換可能場所等が表示できるようにする ・夫婦間で連動できる仕組みを作る
	先輩保護者に対する質問	<ul style="list-style-type: none"> ・来年子どもが小学校に上がる保護者から小学校に子どもがいる親への質問（先生の感想、習い事など） ・近隣住民間の質問（七五三のお参り、病院の感想など）
	母子手帳の改良	<ul style="list-style-type: none"> ・「母子手帳」の通称を「親子手帳」に変更する 例：岡山市 ・母子手帳をアプリ化し、夫婦で登録するよう促す ・アプリ化した母子手帳に、地域団体が情報を入力できる仕組みを作る

～具体的な施策提案～

1. 子育てアプリの改良



2. 親子手帳のアプリ化



9. 個人、地域、行政すべての人が情報を共有できる環境をつくる
子育て、教育等にかかわりやすい環境

【提案内容】

行政は、ホームページや広報誌などで情報発信しているが、市民等に情報は行き届いていない。スマートフォンが普及する中、個人・地域・行政が情報共有する手段として、スマホアプリをつくり、それを個人・地域・行政が活用することで情報共有を行う（プッシュ通知などの能動的な情報発信、情報受信等）。

「提案9」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

アプリの登録。
 アプリを活用した情報発信（掲示板等でのおすすめスポット書き込みなど）
 有志（グループなど）によるアプリを活用したお助け板等の運用（先輩ママさんのQ&A板）
 おすすめ情報のSNS等での拡散。
 アプリを活用した能動的な情報受信。
 アプリを活用した募集、相談等への積極的な関わり。

地域

アプリの登録。
 アプリを活用した情報発信（掲示板等での地域情報の書き込みなど）
 地域に有用な情報の能動的な受信、発信。
 アプリを活用した募集、相談等への積極的なかかわり。

行政

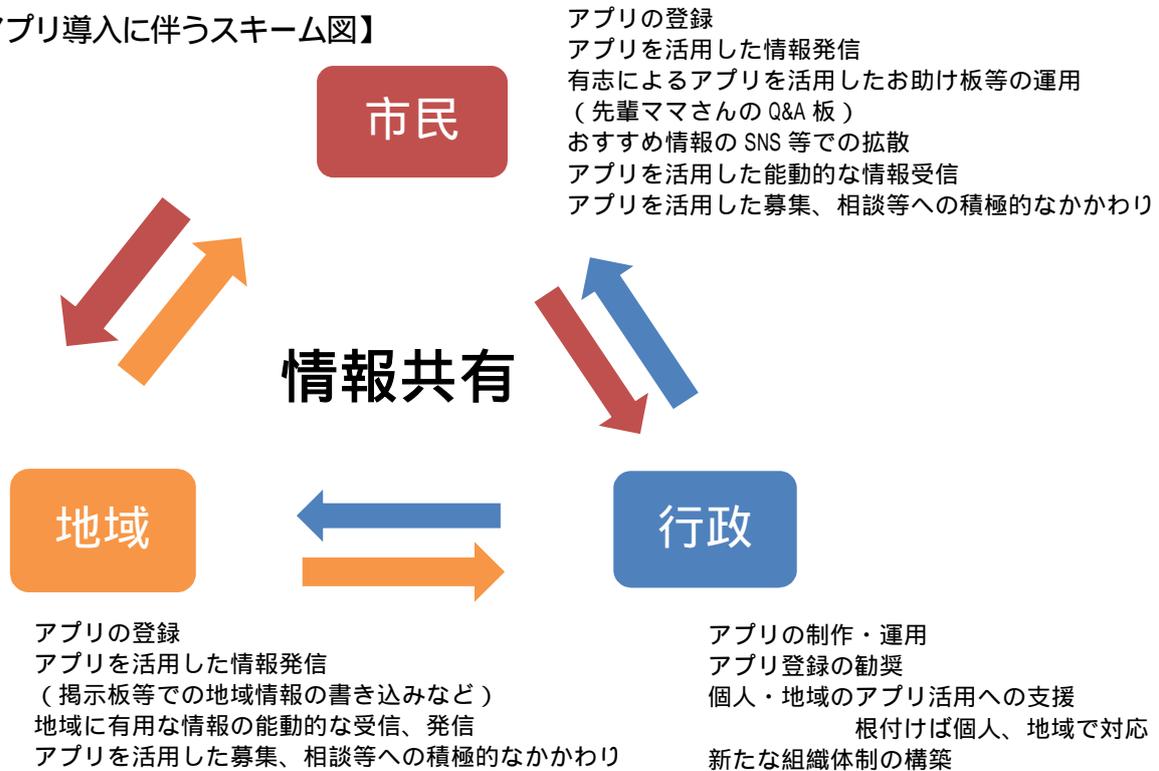
アプリの制作・運用（市民団体等の外部掲示板へのリンク・接続）
 興味あることにチェック入れると、プッシュ通知が届く等の工夫
 最終形では、子どもだけでなく、高齢者、障害者、川西市で働く人など全てが活用
 アプリの活用として、スマホのタッチで検診の申し込み完了など
 アプリ登録の勧奨。
 個人・地域のアプリ活用への支援 根付けば個人、地域で対応
 新たな組織体制（少しでもリアルタイム情報発信等が行える体制）の構築。

民間企業、
NPO等

将来的に、企業や先輩ママさんグループ、助産師グループなどが掲示板等に積極的に参加していければ理想。

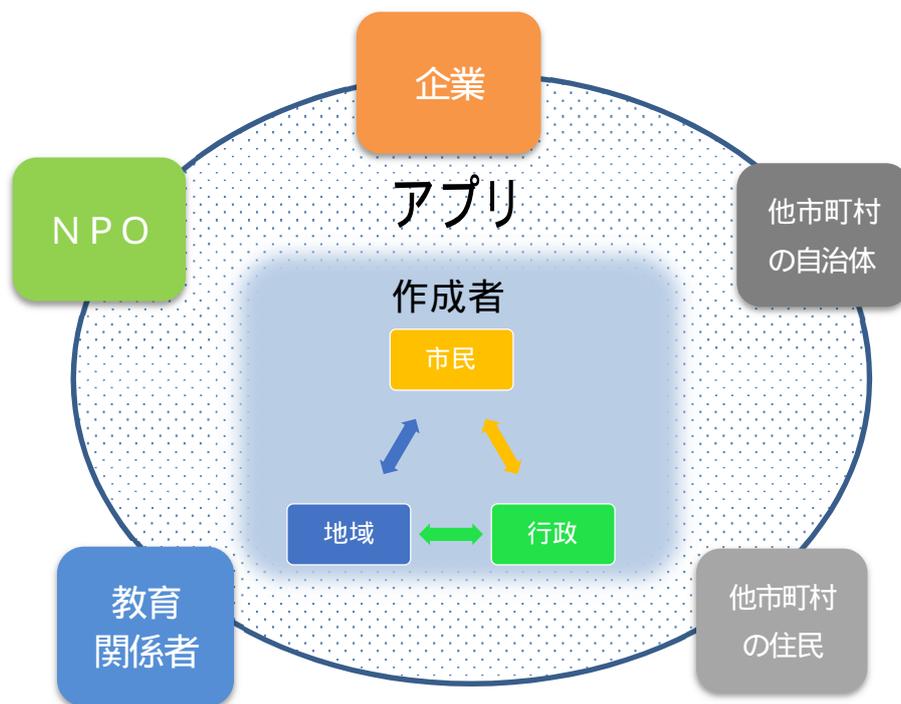
1. アプリ導入に伴う情報共有体制の構築

【アプリ導入に伴うスキーム図】



【アプリ利用者と作成者のスキーム図】

市民、行政、地域はアプリの**作成者**であり**利用者**である
 企業、他市町村の自治体・市民、教育関係者、NPOはアプリの**利用者**である



10. 地域に誰もが気軽に過ごせる場所をつくる
 多世代交流「みんなで子どもを育てる。子どもにより、みんながつながる」

【提案内容】

身近な場所に“多世代の方が気軽に過ごせる”“時間を共有できる場所”を作ること、交流を通じて、相談の場のみならず、学習・教育の場と発展する。

「提案10」の実現に向けて、それぞれが行うこと

個人

交流の場へ積極的に行き、交流の場で自由に過ごす。

交流の場で、無理なく自分にできることをする。

子どもと遊ぶ、子どもの宿題を一緒にする、将棋を教える、料理を作る、編み物をする、本を読む、他の人の悩み（相談）を聞く、とりあえず居る等

地域

交流の場のサポート（交流の場の活性化への取り組み、管理等）

交流の場の提供（自治会館等）

行政

小学校、公民館、児童館、空き家等を活用した、地域の交流の場の開放。

個人・地域での交流の場の活動支援（定着までの間、専門員を派遣等）

個人や地域での活動情報を他地域へ連携。

活動支援（法整備、経済的支援（将来的には自立が理想）等）

民間企業、
NPO等

場所の提供。

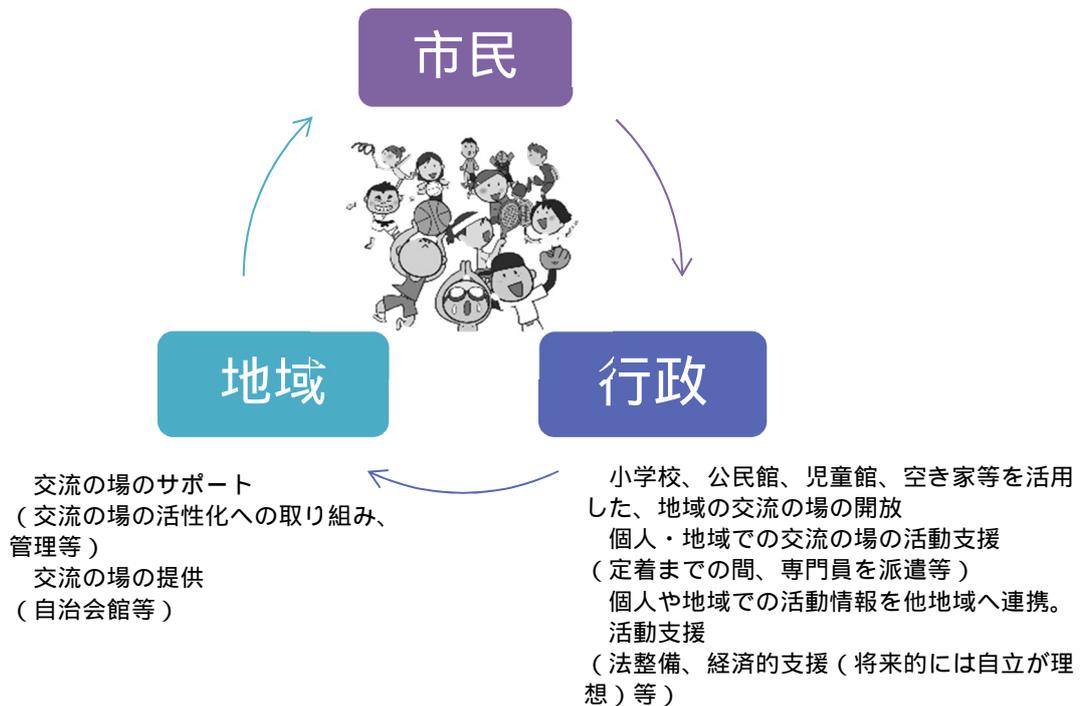
活動支援。

経済的支援。

1. 交流の場における多世代交流

【放課後活動に必要な支援】

交流の場へ積極的に行き、交流の場で自由に過ごす
交流の場で、無理なく自分にできることをする
こどもと遊ぶ、こどもの宿題を一緒にする、将棋をおしえる、料理をつくる、編み物をする、本を読む、他の人の悩み（相談）を聞く、とりあえず居る等



【交流の場の将来像】

- ・そこに行けば、いつも誰か知ってる人がいる → 子どもだけでも安心
- ・こっちは、元教師が子ども達の宿題を見ている。あっちでは「おじいちゃん」と「子ども」が将棋を指している。違う場所では、子どもが年配の方にスマホの使い方を教えている。また、違う場所では、先輩ママさんが後輩ママさんの相談に乗っている。また、違う場所では、パパさん達でバーベキュー大会の企画をしているなど

色々な人が多様に過ごす空間が身近にあることが、子どもの将来の選択肢を広げる。

- ・子どもが、学校に行きたくないなっていうときに、学校をサボって交流の場に来るなど、家と学校以外にも居場所ができることで精神的な余裕ができる。また、日頃の交流の場での交流により、その日に来ていた人が親へ連絡することで、子どものいる場所が把握でき、安心につながる。
- ・独居の高齢者　　さんを今日、見かけなかったな　　交流の場から帰るときに、少しお宅によって声掛けしてみよう
- ・交流の場が定着すれば、放課後教室や学童保育などいらなくなるかも